

教育改革審議会 令和6年8月9日(金) 15:00～

羽曳野市中圏域・西圏域の教育環境の今後について

○峰塚中学校

- ・大規模校の良い点として学校行事、体育大会などすごく盛り上がりがある。
- ・トラブルも多い中、子どもたちの関係を密な関係を構築することができる。
- ・資料5より、資料に写っていないところからも来ている。(峰塚中)
- ・通学区域が広いため、4割弱は自転車通学をしている。
(交通事故が問題)
- ・切磋琢磨、仲間とのつながりを大切にしながら学校全体で取り組んでいる。

○高鷲北小学校

- ・比較的新しい校区のため、伝統的な行事(だんじり)はないが、地域の方によるお祭りは開催されている。
- ・高鷲小学校から分離した。当時は旧高鷲中学校をそのまま利用。
- ・現在は全266名、2年と4年が単学級。
- ・平成18年には全学年3クラスあった。(児童数が増えた時期)
- ・空き教室を利用して、少人数、不登校の児童へ教室として。
- ・学年での児童や保護者においての、集団の固定化が生じる可能性がある。

○高鷲南小学校

- ・資料3-2 高鷲小学校から分離、児童数は横ばい。
- ・昔は学校の東門から高鷲駅が見通せた。現在は住宅が建ったため見通せない。それだけ開発が進んだ。
- ・卒業生が地域に住み続けることが多い。地元への愛着が強い。
- ・子どもたちの様子は人懐っこく、素直。
- ・大人と子供の関係性がよい。
- ・児童数は今年度新1年生3クラス。来年度も3クラスの予定。
- ・将来も3クラスで推移する予定。

○高鷲中学校

- ・生徒数の減少に伴い、学級が減少。それに伴い教員数も減少。
- ・3年後には今の学級数より1減になる。それに伴い、教員数が減る
- ・子どもの減少により、部活動が課題となる。
- ・令和4年にはクラブを2つ減らさないといけない。教員数のため。
- ・剣道部と女子バレー部がなくなる。
- ・野球部が1年後になくなる。
- ・1つの運動部に対して3人の顧問が必要。(子どもの安全のため)
- ・教員数減少は授業の持ち時間のアンバランスが出てくる。
- ・1学年に5教科の教師が揃わない。
- ・2学年、3学年の授業を受け持つことは、教材研究が2, 3倍とかかる。
- ・各学年5~6名の教職員で子どもたちを見ているため、全教師で全子どもを見守っている。
- ・生徒の表彰、生徒の数が少ないからこそ、全員に渡すことができる。
- ・校区が狭いため、全員が徒歩通学している。
(交通事故の心配は少ない)

・まちづくり、都市をどのように作っていくのか。公共施設の配置も含めて今後検討していくことが大切。

- ・立地適正化計画上の都市機能移動区域、居住誘導区域
- ・駒ヶ谷地域が市街化調整区域
- ・校区が広がっていくことへの手立て。どうやって通うのか。路線バス 等今の公共交通機関がどうなっているのか。

(都市計画マスタープランとの整合性)

- ・様々な圏域を部署をまたいで考える必要がある。
- ・人口推計はかなりの確率で正しいもの。
- ・立地適正化計画が動き出したときに人口推移をリンクさせて考える必要がある。
- ・中圏域、西圏域においても、将来のどの時点を見据えて検討していくのが大切。
- ・小中学校の将来を人口のデータ、歴史を踏まえて考える。一つひとつリストアップして良い点、改善点を考えて落としどころを探っていく。
- ・予算等も加味した現実的なものであることが大切。
- ・どの時点を見据えて、逆算して考えていくか。

- ・学校だけではなく、公民館、図書館、体育館等との関係も大切。
- ・安心安全に子どもたちを通わせる場所であってほしい
- ・西圏域の学校間近いと感じるのは、あくまで大人感覚。子どもたちはまた違うもの。
- ・遊ぶところあるところ、ないところいろいろある
- ・慎重にあせらず、また、決定事項を伝えるだけではなく、説明会等も実施しながら、保護者の意見も吸い上げて決めていってほしい。
- ・今年度プール堺市に行くことになって子どもは喜んでいる。親として 今後も続くのかな。そうあってほしいと思っている。
- ・親としては、元気に楽しく学校に通えることが大切。
- ・当時とあまり道は変わっていないのでは。
- ・スクールバスを走らすとなると、道路事情から考えると、しんどいの ではないか。
- ・校区再編ということでいえば、道路のことも考えていかないといけないのでは。
- ・高校のことを考えると、ある程度のルール作りをして考える必要がある。
- ・通学のことを考えると、歩道のない道路を通学することはあまり推奨 されるものではない。
- ・緊急車両が通行できるように、建物の建て替え時には、4メートルの セットバックが義務付けられているため、徐々にではあるが整備はさ れていくのではないか。
- ・通学路をどう考えていくのか。再編するときには考えていかないとい けない。校区の再編はできたが、安全性は確保できないということではいけない。
- ・子どもたちに直接関わることなので子どもたちがどのような意見を 持っているのかを述べる場が持てないか。
- ・子ども自身の意見が、社会に反映できるという体験を子どもがするこ とも大切。

○学校規模適正化・校区再編

- ・小学校は地域コミュニティの1つの単位として機能している。
- ・住んでいるすべての人に関わる問題である。学校は地域の方のアイデンティティでもある。

- 手段としての統廃合だけではなく、コミュニティとしての単位としての価値を大切にしてほしい。
- 大人から見たときの学校の役割。もちろん、今通っている子どもを考えるのはそうだが。
- 公共施設が少ない地域にこそ、学校があることの意味が大切。(学校が学校としての意味だけでなく、地域における意味も大切に)